



市立病院だより

～市民の健康といのちを守ります～

問 市立病院 ☎ 87・1161 FAX 87・5624

看護部長就任のごあいさつ



副院長兼看護部長

大西 アイ子

関西ろうさい病院、六甲アイランド甲南病院で病棟師長、医療安全管理者を経て、2015年に宝塚市立病院へ。医療安全管理学修士、認定看護管理者。趣味は文房具集め。ミニチュアに心を癒されています。

4月から新しく看護部長に就任し、市立病院看護部では新規採用のフレッシュな仲間と共に新年度を迎えました。

さて、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行して3カ月が経過しようとしています。この未曾有の感染症への対応は、人々の生活にさまざまな影響をもたらしました。患者さんの一番近くでケアをする看護師も多くの影響を受けました。第1波や第2波の頃は、有効な治療手段やワクチンもなく、目の前で重症化していく患者さんに対するケアを行う中で、医療を必要とするすべての患者さんに、最良の療養環境を提供することができたであろうか、と自問しながらの日々でした。一方で病院で働く職員も自身が感染するかもしれない、という不安と闘いながら、周りからの多くの目を気にしながら生活する日々でした。

それから3年が経とうとしていますが、変わったことと変わっていないことが今でもあります。

看護師は、自身が感染するという恐怖と同時に、自分が感染したら患者さんや同僚を感染させてしまうかもしれない、という不安に今もさらされているため、自らに厳しいルールを課し生活しています。それは、自身のことはさておき、他者、つまり周りのことを優先することを良しとする利他の心に通じるのではないかと思います。患者さんの療養生活は少しずつ以前の状況を取り戻すよう、緩やかではありますが変化しています。院内でのマスク着用や面会の制限など、まだまだ慎重なところもありますが、少しでも日常を取り戻せるよう、療養環境を整えていきたいと考えています。

この3年間は病院内にコロナ専門病棟をつくり、看護部全体で対応していました。病棟の再編成を繰り返すこととなり、それぞれの看護師が思い描いていたキャリアプランとは差が生じることもありました。

私たちは、患者さんの幸せを自身の幸せへとつなぐことを理念に、新メンバーでのスタートを切りました。皆さんの温かい声援と、叱咤^{しつた}激励を待っています。そして、私たちの仲間となって一緒に働いてくださる方も待っています!

(看護師の募集については10面を参照)

ラジオ「市立病院の得した気分!」



エフエム宝塚(83.5MHz)で市立病院の医師などがお話します。

日 8月12日(土)17時20分～17時50分

(再)8月13日(日)19時～19時半

テーマ:看護部長就任のごあいさつ

出演:副院長兼看護部長 大西 アイ子

がんサロン「セキレイ」(対面式とZoomの同時開催)

がん患者同士の不安や悩み、体験を話す交流の場です。

日 8月16日(水)15時～15時40分

場 がん診療支援センター(現地参加は予約不要。開始10分前までに直接会場へ)

対 がん治療中の人とその家族(当院を受診していない人でも参加可能)

問 同センター(☎87・1161)



▲ Zoom 申し込み